National Parks of Japan

※2024年９月時点

知床国立公園（羅臼町・斜里町）のゼロカーボンパーク登録

1．知床国立公園 / 知床世界自然遺産の概要

- 知床国立公園は、ヒグマやシャチなどの大型哺乳類、絶滅の恐れのあるシマフクロウなど希少な野生生物が棲息していること、流氷が到達する海と原生的な森林が残る陸地が相互に関連しあって、一体となって生態系を形づくっていることが評価され、2005年7月17日に世界自然遺産に登録された。
- 知床国立公園は、年間96万人（2022年）の利用者が訪れている。知床では世界遺産の環境に配慮したエコツアー（ガイドツアー）が浸透している。
- 羅臼町は2021年3月16日、斜里町は2022年3月18日にゼロカーボンシティを表明

知床連山
と知床五湖

海を覆う流氷

2．ゼロカーボンパークに向けた取組

①　CO_2の吸収源　森林の保全・再生の推進

- 知床国立公園は、38,954ヘクタール（陸域）の広大な面積を有し、国立公園及び世界自然遺産の管理の一環として、エゾシカ個体数管理や河川工作物の改良等を進めており、健全な森林生態系が維持されることによりCO_2吸収量の確保が図られている。
- しれとこ100平方メートル運動の推進（斜里町）
  - かつて乱開発の危機にあった開拓跡地を保全し、原生の森を復元する「しれとこ100平方メートル運動」は、「100平方メートル運動・トラスト」へと発展し、知床に元々ある多様で豊かな生態系を復元する活動を行っている。
  - しれとこ100平方メートル運動森林再生計画　第2次中期計画（2018～2037年度）による森林再生計画に取り組む。

森林再生ボランティア活動による植樹作業

National Parks of Japan

※2024年９月時点

知床国立公園（羅臼町・斜里町）のゼロカーボンパーク登録

② 海の森　ブルーカーボン

- 基幹産業の昆布養殖はCO_2吸収・固定だけでなく、漁場環境の維持・改善、生態系の保全、観光資源としての活用など多面的な機能・価値を有している。地球温暖化に伴う磯焼けの拡大を防ぐための企業等との連携により、多様性に富んだ海藻生育環境の再生を念頭に置いたブルーカーボンに資する藻場造成を実現し、沿岸海洋環境の正常化と魚資源の産卵・育成の環境の維持を図る。（羅臼町）

藻場・コンブ場

③ 脱炭素に向けた再エネ・省エネの導入

- 温泉ホテルや旅館のほか市街地の公共施設において、温泉熱利用による熱交換（給湯・暖房）が導入されている。（羅臼町）
- 知床自然センター、100㎡運動ハウスにおいて、照明のLED化を実施している。（斜里町）

温泉の源泉

④ サステナブルな観光地の推進

- 国立公園内外の海岸清掃を行い、ごみとして回収した漁具のアップサイクル（創造的再利用）に取り組んでいる。（斜里町）
- 知床自然センターにて、E-Bike等の環境に配慮したモビリティを配置し、貸し出している。（斜里町）
- 人とヒグマとの共存を目指し、市街地でヒグマが身を隠す草藪を刈り取る活動が両町で展開されている。（「クマ活」（斜里町）・ヒグマ対策草刈り」（羅臼町））

海岸ごみの清掃活動

3．環境省における対応

- ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等整備費等の既存予算を活用して支援する他、釧路自然環境事務所が連携をとりながら伴走支援を行い、脱炭素化の取組を後押し。